

10.11三里塚 『57.11大合理化粉碎』の総決起宣言



日刊 労働千葉

82.9.16
No. 1147

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(公衆電話)三三二七・二〇七

第5回青年部定期委員会がさげすまれる9/11

才5回青年部定期委員会が、9月11日、千葉運転区講習室で開催され、圧倒的成功をかちとった。世界戦争前夜ともいうべき情勢の中、開催された本定期委員会は重要な位置を占めている。とりわけ、独自の軍事大園化改定の道に危機のり切りを策す日本帝国主義は、労働者人民への大反動攻撃を加えてきている。青年部は、危機が深まれば深まるほど労働者人民の怒りを結集して、支配者打倒のキャンペーンは広がるやりのある時代の到来との認識のもと、闘う方針を精場一致で確立し、とりわけ今秋闘争にその力ギがあるとし、10.11三里塚総決起、『57.11大改、検修合理化粉碎』の闘いを全力で叩いぬくことを決定した。

三里塚一園鉄をめぐり 今秋決戦に勝利しよう — 田中青年部長あさう —

委員会は、伊藤(幕張)・鈴木(勝浦)両君を議長団に選出して進められた。冒頭、あさうに立った田中青年部長は、「帝国主義は、ますますい危存に叩きこまれている。人民の反撃を力づくで圧殺するために、治安警察の強化、三井一下稲葉という反動的人事をしいて、最大の焦点としての三里塚二期攻撃、反対同盟切り崩しの攻撃に全面的に出ている。また、二つと団体の攻撃として臨調、国鉄労働運動解体攻撃に出ている。のどむとこらだ、ゆれゆれは、三里塚一園鉄という戦略的要衝にガツンとみあっているものとして、今秋闘争に決起しよう」との戦争宣言を述べた。

北原事務局長、断固たる連帯の挨拶

続いて、来賓の関川委員長、東京東行委の石田郁夫氏、それに、緊迫を増し、多忙中の三里塚現地より反対同盟を代表して北原事務局長から、ありさつと激励をうけた。中でも北原事務局長は腹の底からの怒りをこめて、「ついに革マル派が、こんどもない根も葉もないデマを、デッサンあけて、三里塚闘争破壊の謀略的攻撃に出ている。これを、成田用水を使って、同盟を分断し、条件強化しようという攻撃がうまくいかなくて立往生してしまっている公団と一部裏切り者の尻押をし、叩く反対同盟を傷つけようといつ造った。権力公団一部裏切り者と結託する事に許せぬ、果敢とつな攻撃である。

革マル派の卑劣な攻撃を粉碎し、成田用水攻撃にトドメをさすために、10.11は、いまだかつてないような大動員を必ず実現していこう。労働千葉の青年部の諸君に、期待する。」と決意のこもったあさうと訴えをおこなない。満場の大きな拍手がこれにこたえた。

25名が発言、— 活発な討論で方針を決定 —

委員会は、常任委員会からの総括、方針提起をうけ、討論に入っていた。幕張支青の代議員からの「10.11に総決起しよう」との発言をかわきりに熱い討論がかわされた。討論は、三里塚臨調行革本部革マルの裏切り、等に集中し、今秋決戦への総決起の決意が述べられた。そして、佐倉支青からの提議で、「佐倉、津田沼、木更津幕張の4支部合同で、検修合理化粉碎総決起集会を開催する」とが決定された。又、「成田用水攻撃と対決し、二期決戦に勝利する決議」「検修合理化粉碎決議」「革マル送り込み分子、長倉川、海宝追放一掃する決議」が採択され、12名の新役員体制を確立し、田中青年部長の団結カンパローで閉会した。

すべての青年部員は、定期委員会の成功にのみならず、現場からの反動勢力闘争をつみ上げ、それに結合して10.11三里塚への総決起をつくりあげよう。青年部は、今秋決戦の先頭に立ち、

